

## 大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会

### 第8回会合 議事概要

- 1 日 時：平成23年12月27日（火） 14時00分～14時50分
- 2 場 所：総務省 8階第1特別会議室
- 3 出席者：

（構成員）桜井総合通信基盤局長、原口電気通信事業部長、鈴木電波部長、相田構成員、服部構成員、有田構成員、清貞構成員代理、飯塚構成員、入江構成員代理、嶋谷構成員、杉山構成員、資宗構成員、吉田構成員代理、立石構成員、富永構成員、永井構成員、鈴木構成員代理、菅波構成員代理、山村構成員、弓削構成員代理、吉崎構成員

（総務省）古市事業政策課長、竹内電波政策課長、齋藤データ通信課長、二宮料金サービス課長、野崎電気通信技術システム課長

#### 4 模 様

桜井座長） 定刻になりましたので、「大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方に関する検討会」第8回会合を開催させていただきます。

前回11月28日の第7回会合におきまして、最終取りまとめ（案）について御議論いただいたわけでございます。

本日は、前回会合での御議論、その後に実施いたしましたパブリックコメントを踏まえた最終取りまとめ（案）並びに提出された意見に対する総務省の考え方（案）について御議論いただきまして、最終取りまとめを行ってまいりたいと思っております。よろしく願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。

まず初めに、事務局から最終取りまとめ（案）及び提出された意見に対する総務省の考え方（案）について説明いただきます。

<資料8-1、8-2、8-3に基づき説明。>

桜井座長） どうもありがとうございました。

それでは、ただいまの最終取りまとめ（案）につきまして、御意見、あるいは御質問でも結構でございますが、ありましたら、御発言をお願いいたします。

相田構成員) では、私から1点よろしいでしょうか。

今回、新たに実施していただいたアンケート調査、聞き取り調査の結果そのものは、総務省さんとして公表されておられるのでしょうか。もし、公表されておられるのだったら、それも入手可能ですというのはどこかに書かれたらいいかなと思いました。

古市事業政策課長) まず、東日本大震災発生後の通信状況に関するアンケートにつきましては、11月21日に開催されましたネットワークインフラWG、インターネット利用WGの合同WGの第9回会合の資料として出させていただきます。この資料につきましては、ホームページに掲載をしているところでございます。

もう1つの総務省委託のインタビュー調査につきましても、これは12月16日のICTを活用したまちづくりとグローバル展開に関する懇談会において提出された資料でございまして、ホームページに掲載をしているところでございます。御指摘の点については対応させていただきたいと思います。

相田構成員) どの会合の資料として入手可能であるということを終取りまとめに追記していただいたらいいかなと思いました。

桜井座長) そのほか、いかがでしょうか。事前にお目通しもいただいていると思いますので、これでよろしゅうございますか。

それでは、御了承いただいたということで、最終取りまとめの(案)をとった形にさせていただきます。どうもありがとうございました。

本日、最後でございますので、構成員の方々から一言ずつちょうだいできればと思います。有田様から鈴木様、菅波様から吉崎様、最後に、両WGの主査の先生にコメントをいただくという段取りにしたいと思います。

それでは、有田さん、よろしく願いいたします。

有田構成員) UQコミュニケーションズの有田でございます。

今回の震災、また、その後の復旧あるいは復興におけるいろいろな経過、また、検討会におきまして、私どもも大変勉強させていただきました。会社としても通信インフラの重要性、あるいは社会的使命の重さを再認識させていただいた次第です。

今回、対応等、また、私どもも自ら取り組むべきこと等も含めまして、方向を示していただけたこと、大変ありがたく思っております。

私どもはエイヨ、北海市、マナスでも震災に遭いまして、現状も、設備の建設、あるいは増設途上でございますが、今回の議論の方向も踏まえて、さらに、社会的インフラの一端を担わせていただくべき会社として、しっかり頑張っていきたいと思っております。

日に日にICTの重要性が深まっていくと思いますので、社会の御期待にこたえられるように、しっかり頑張ってまいりたいと思います。どうもありがとうございました。

桜井座長) ありがとうございました。では、飯塚さん、お願いいたします。

飯塚構成員) 最初に、少し我田引水的なことを申し上げますと、今回の最終取りまとめ、もちろん、皆さん全員の努力のたまものだと思いますが、現時点で想定できることにおいては、よくできた最終取りまとめになっているのではないかと思います。

しかし、少し視点を変えてみますと、冒頭から私は申し上げてきたところですが、インターネットをはじめとして、想定できない、あるいは、もっと想像力を働かせると、実は、まだまだ想像力の至らない事態も想定されます。特に、別の視点から見ますと、今回、実際の大震災に当たって、2か月余りで通信事業者の皆さん、キャリアの皆さんが、世界に自慢できるぐらいの、とりあえずの復旧をしていただいたということがあったと思うのですが、実は、このような復旧ができるのも、産業として、それぞれが健全な事業を営んでいるかどうかということが根幹にあると思います。

そういう観点でもっと幅広く見たときに、残念ながら、日本の情報通信産業は、世界の中で決して自慢できない側面が生じているのも事実であって、総務省さんにおかれても、国際戦略的な検討等は進めていただいているところではありますが、いよいよ、我々民間を含めて、改めて国際的に見たときの情報通信産業の日本としての活性化が災害対策の根幹にはあるという観点からも、引き続き総務省さんにおかれては、国際的な視点からの御検討は今後もますます続けていただきたいと思います。

具体的には、我々インターネット事業者からすると、今、インターネットの中立性議論が改めて行われたりしているわけですが、そういった点でも、世界の潮流に遅れをとらないような開かれた議論をますますしていただけたらありがたいと同時に、産業的にも、よりバランスのとれた、本当に健全な競争を心がけた御指導を賜ればと思います。以上でございます。

桜井座長) ありがとうございました。それでは、入江さん、お願いします。

入江構成員代理) 弊社もコメントさせていただきたいと思いますが、その前に、先般の20日の故障におきまして、多くのお客様に多大な御迷惑をおかけして、深くおわびをしたいと思います。私ども、移動通信サービスの事業における責任を痛感するとともに、特にスマートフォン時代を考慮した対応を今後ともしっかりさせていただきたいと思っている所存でございます。

今回の取りまとめにたくさんの方が参画し、お客様視点でのいろいろなコメント、ま

た、今回のパブコメを拝見させていただいても、多面的な物事の見方があるということが理解できますので、皆様の労に感謝するとともに、今回は災害対策、大規模な災害に対してどのように取り組み、向き合っていくのかという御議論だったわけですが、災害時のみならず、平時も含めてしっかり事業運営をしていきたいと思っておりますので、今後とも御指導等よろしくお願ひしたいと思ひます。以上でございます。

桜井座長) どうもありがとうございました。嶋谷さん、お願ひします。

嶋谷構成員) KDDIの嶋谷でございます。

今回、この検討会に参加させていただきまして、ありがとうございました。私どももいろいろと提案をさせていただいたりして、少しは検討会の最終取りまとめに貢献できたかなと思っております。

社内的にも災害に強いネットワーク作りということで、着々と準備を進めておりますし、できる限り早く、解決していきたいと思っております。

それと、いったん災害が発生した場合の早期の復旧については、ますます努めていきたいと思っております、やはり早期の復旧には訓練が必要と思っております。先日多摩川の河川敷をお借りして、車載の基地局の立ち上げ訓練等を全国から集まって行ったり、年明けには、全社的に首都直下型地震を想定して行ってみたり、いろいろ訓練をしようと思っております。日々訓練を行い、少しでも即応性を磨いていき、災害が起きて、すぐにサービスを復旧できるような形に持っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

桜井座長) ありがとうございました。杉山さん、お願ひいたします。

杉山構成員) 移動無線センターの杉山でございます。

最終取りまとめは非常に多様な視点から包括的な対策を取りまとめたことをご感謝いたします。

MCA無線は、災害時にも通信確保ができる無線ということで、災害対策やBCPとしての利用が大きな柱としてあるのですが、中継局に非常用発電機を整備していてもその燃料の調達ができなければ長期停電時にサービス継続ができないわけで、先日の震災でも燃料調達に苦労しました。この対策についても最終取りまとめに取り上げていただきまして、これからスムーズに対応していけると期待しております。

私どものMCA無線に対しては、震災以降、市町村の防災用や企業のBCPの関係で非常に関心が高まっておりまして、災害対策分野での利用が増大しておりますので、皆様の高い期待にこたえて社会的に大きな責任を果たしていく必要があると、改めて感じ

ております。

桜井座長) どうもありがとうございました。資宗さん、お願いいたします。

資宗構成員) C I A Jの資宗でございます。

今回の最終取りまとめ、非常に緊急を要するというので、時間もあまりない中、皆様方の御努力下、現時点で考える限り、ほぼ、あらゆる課題、問題点を網羅し、それに対するいろいろな論点を多く出しているということで、今日現在のスタンダードになり得るもの、手本がようやくできたのかなと考えております。

これから先は私の感想ですが、ICTの世界は、スマートフォンや次の新しい世代のネットワーク等非常に動きが出てきておまして、それらと大規模災害がどうつながるかは、今後、更にいろいろ変化すると思います。また、変化しなければいけないと思っておりますので、今回はこの最終取りまとめでいいわけでございますが、次の災害時の新たな議論のときに、災害なり何なりの視点が手本になるので、これをリファレンスにして議論を進めると効率的というか、一種のストックとしてずっと積み重ねていけば、より高い議論ができるのではないかと思いますので、そういう運用をしていただければ、我々としても非常にありがたいと思っております。

桜井座長) どうもありがとうございました。

それでは、吉田さん、お願いいたします。

吉田構成員代理) ジュピターテレコムの方で吉田でございます。今日、田口は所用がありましたので、私、代理で出席させていただいております。

私自身は今回のネットワークインフラWGに参加させていただいて、ケーブルテレビ事業者として何ができるかという観点で幾つか検討に臨みました。ケーブルテレビも、電話、インターネットはもちろん提供しておりますが、メインになっているのはケーブルテレビです。放送事業ということで、今年は御案内のように放送法も改正されまして、放送のインフラとしての重要性が再度認識され、我々も通信のインフラと同様に磐石なインフラを作るべく努力をしているところでございます。

今年は震災ということで、私どもは仙台の一部市内で営業しておりますので対応をしたのですが、津波等で被災された気仙沼といった小さなケーブルテレビ事業者の場合は、ヘッドエンド、局舎がすべて流されてしまうという壊滅的な打撃を受けておまして、ケーブルテレビ業界として復興に取り組みました。我々の1つのポイントとしては、地域メディアということでとらえられますので、各局ともコミュニティチャンネル、自主放送ということで、なかなか全国放送では取り上げられないような、地域に密着した情報

を緊急時にもきちんと出していける取組や我々なりの特色、メディアを生かした取組を今後もしていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。以上です。

桜井座長) どうもありがとうございました。それでは、立石さん、お願いします。

立石構成員) プロバイダー協会の立石でございます。

プロバイダー協会としても、帯域制御のガイドライン等まだまだ検討しなければいけないところがありまして、重い課題を今後、できるだけ早く対応していきたいと思っています。

ただ、この中で、例えば、地域 I X、分散 I Xの話は、過去10年間いろいろ話をして難しかったのですが、また少し違う芽が出てきています。もしかしたら可能なのかなというところもあるので、今後、もっといろいろな人を巻き込みながら検討していきたいと思っています。

それから、昨日、想定をやめるべきではないかという話がニュースでも流れていましたが、仙台で我々が会議をやっているときに、想定というよりは、最大の災害対策は人材育成だということを仙台の方がおっしゃっていたのを思い出しまして、そういう意味で分散 I Xは役に立つかなと考えております。

それと、ここは関係がないのですが、企業のコンサルティングをやっている方とお話をしたときに、この取りまとめの中にも書いてあるのですけれども、通話というか、1回つながったら話がなくても切るなということを B C Pの中に書いている企業が出てきているという話もあったので、通話の時間の制限も視野に入れなければいけないのかなと感じております。以上です。

桜井座長) どうもありがとうございました。富永さん、お願いします。

富永構成員) 今回の最終取りまとめは非常に包括的、総合的な観点からできているものと認識しております。重要なのは、今回の最終取りまとめをスタート地点にして、これから関係者でしっかりフォローアップしていくということではないかと思っております。

フォローアップする対策も様々ございますが、根源的に重要なのは、ネットワークそのものをいかに強くするかということだと思います。近未来のネットワークを改善していくということでは、総務省も今回予算的な措置をされておりますし、是非、関係機関でしっかりと研究開発・対策を行っていくべきだと思っております。

私ども N I C Tとしては、対策を打つ、研究開発をやっていくという中で、成果の検証や実証をしていく環境を提示させていただくということで支援をさせていただきたいと思っております。また、少し長期的に見れば、災害に強いネットワークをいかに実現

するかということで、抜本的な研究開発をやっていきたいと思っております。今後とも皆さんと連携して、是非、災害に強いネットワーク環境を構築していきたいと思っております。以上です。

桜井座長) ありがとうございます。永井さん、お願いします。

永井構成員) スカパーJ S A Tの永井でございます。

今回の検討会は、震災直後に非常に迅速に開催していただきまして、広範囲にわたって議論をすることができまして、今回のような取りまとめをすることができました。最終取りまとめの中には、いろいろな対応策、具体的なアクションプランまで盛り込んだということで、非常に広範かつ具体的な取りまとめができたなど非常に感謝しております。この立派な最終取りまとめを絵に書いた餅にしないために、最終取りまとめに記述してある様々なことを政府、各キャリアさんやサービス事業者さんが具体的にやっていくことが非常に重要だと認識しております。

当社においても、今回の震災を受けまして衛星通信の認識を新たにされたということも踏まえまして、いろいろな設備の二重化等、信頼性を高めることを具体的に進めておりますが、各キャリアさん、事業者さんにおいても、具体的にこの最終取りまとめに書かれているようなことを既に検討されていると理解しておりますし、政府におかれましても、具体的な予算措置等を講じて進められていると理解しております。

今回の震災で、私どもの事業からいいまして、衛星回線というのは今回の震災のような非常時に使っていただくことが非常に役に立つケースが多いのですが、何度もこの検討会でも申し上げてきましたが、災害が起きてから衛星回線のような通信設備を持ち込むのでは効果が半減します。災害が起きる前に、事前に万全のバックアップの通信設備等を用意しておくことが非常に大事だということを認識されたと理解しておりますので、是非とも、この最終取りまとめに沿って、今後、震災が起こる確率が非常に高いと言われている東南海地震の対象エリア等に対し、具体的に、ここに書かれているような施策を迅速に実施していただく、あるいは、事業者、政府がそれぞれの立場でやっていくことが重要ではないかなと思っております。

1点、東南海地震を踏まえた具体的で部分的な発言になるかもしれませんが、現在、東日本大震災のエリアにおきまして、総務省さんの予算措置によって仮設住宅に180局余りのV S A Tがブロードバンドの通信環境を提供するという目的で設置してございます。しかし、仮設住宅は2年をめどに徐々になくなっていくと理解しておりますので、その後のV S A Tをどのように活用するのかということにつきまして、具体的に、例え

ば、今、申し上げましたように、これから想定される震災のエリアにV S A Tを設置して、避難場所として想定されるような学校や公民館に事前配備していくということ等、既に最終取りまとめにもいろいろ書いておりますが、具体的な対策を事前に行うことを是非、実行していただきたいというのが感想でございます。

桜井座長) ありがとうございます。それでは、鈴木さん、お願いいたします。

鈴木構成員代理) 平澤の代理の鈴木と申します。

今回は多岐にわたる課題について、丁寧に取りまとめていただき、ありがとうございました。当社としても、震災時に比較的に利用できたという実績もありまして、震災に強いPHSと言われたところもあります。今回、まとめていただいた内容に照らし合わせて、我々としても足りていないところ、課題が把握できたと思いますので、今後とも災害に強いネットワークを維持していきたいと考えております。

桜井座長) どうもありがとうございます。それでは、菅波さん、お願いします。

菅波構成員代理) イー・アクセス、本郷の代理の菅波でございます。

私、今日は代理ですが、ネットワークインフラWGにも構成員として参加させていただきまして、幾つかコメントをさせていただきました。WGの主査の先生方、そして、何よりも事務局の方々がいろいろな事業者、自治体の方々や利用者の方々の意見を取りまとめいただいて、このような最終取りまとめにさせていただいたことに感謝しております。

震災から、また、この検討会が始まってから半年以上過ぎていまして、当初はこの検討会自体もメーリングリストで開催するような状況であったところから、ある種の一段落がついた時期かなと考えておりまして、これを一つの区切りとして、改めて進めていけないといけない点が弊社も多くあるということを感じております。

また、この検討会の結果については、非常に重要な御提案として受け止めておりまして、弊社は発展途上の会社ですので、そこで自社の更なるネットワークの展開を含めて、今後も続けていきたいと考えております。

総務省さんには、今般もそうですが、陰に陽に、いろいろな下地作りをしていただいていると思いますので、今後もバックアップもいただきながら、よりよいサービスを提供するということをやっていききたいと考えております。

桜井座長) どうもありがとうございました。山村さん、お願いします。

山村構成員) N T T東日本の山村でございます。

この検討会は4月にスタートしたと思いますが、今年は3月11日の地震発生以来、当

社は状況の把握と応急復旧を必死になってやっていて、4月に入って、少し応急復旧のめどが見えた時期ぐらいにこの検討会はスタートしたと思います。ちょうどそのころから社内でも、従来から取り組んできた信頼性対策に加えて、さらにどういふことをやったらいいのか、時代が変わって、通信の手段が変わってきたときの緊急通信の在り方をどのようにしようかという議論が始まったときで、そういう中で、この検討会で皆さんと意見交換することができて、非常に役に立ったと思っています。それから、最終取りまとめ自体も非常によく、コンパクトにまとめられたと思っています。

今、もう既にいろいろな対策を打ち始めていますが、なかなか難しい問題も幾つかあり、とにかくどのようにやり遂げるかということで、首都直下型地震もいつ来るかわからないと言われていたような状態なので、なるべく早いうちに、できれば、メインのところは来年の早々までにいろいろな対策を当面打てるものは打っていこうということで、一生懸命やっていきたいと思っています。

そういう意味で、いろいろな関係者に御協力を願うことがあると思いますけれども、そのときはまたよろしくお願ひしたいと思っています。本当に御苦勞様でございました。

桜井座長) ありがとうございます。それでは、弓削さん、お願いします。

弓削構成員代理) ソフトバンクモバイルの弓削でございます。

代理として少し申し上げますが、私からも最初の会合でユーザーの声ということで申し上げたと思うのですが、今日、いろいろと御説明もありましたように追加で記載していただいて、内容的には非常にわかりやすくなったという気がしております。

あとは、各取組をいかに実施するかというのはもちろんですが、当社といたしましても、大エリアの基地局の整備等を急いでいるところがございます、脆弱性をなくすということで、いろいろなことをやっていきたいと思っております。

今、山村さんから首都圏直下型地震も含めていろいろな準備を検討しているということがあって、非常に心強く思ったのですが、感触としては、震災から9か月過ぎて、若干、最初の緊迫感が薄れつつあるという感じもしております、年末でいろいろなテレビ放送とかで再現があるものですから、少しまた緊迫感が出ているのかもしれない。しかし、明日、首都圏に直下型地震等の震災があったらという面での準備というところでは、まだ不十分な部分もあるのではないかとということで、不十分な部分の対策を急がなくてはいけないなと思っております。

これを設備ですべてカバーするのはなかなか難しい部分もあると思いますので、災害時の事業者間の連携や、通信網全体を統括してどうコントロールするかということにつ

いても、今後、検討する必要があると思っております、そういったところでは是非行政でも積極的に関与していただいて、御指導いただければと思っております。

もう1つ、先般、ほかの事業者さんとも話をしていたのですが、記憶、記録は段々薄れていくところがございますので、今回の経験を、先ほど、2点ほど三菱総研さんのレポートがあるという話でしたけれども、そのようなレポートも含めて、各事業者の経験もできるだけ記録して、今後の役に立つような形にしておく必要があるのかなと思っております。どうもありがとうございました。

桜井座長) どうもありがとうございました。吉崎さん、お願いします。

吉崎構成員) アイ・ビー・エムの吉崎です。

改めまして、今回の緊急時における通信を活用したサービス会社として、参加させていただきました。ありがとうございます。

私自身、復興支援プロジェクトとスマートシティを担当しているもので、大変勉強になりました。特に、燃料の問題にしても、印象的だったのは、総務省という枠を超えて対応を考えるような取組があり、その点もこの検討会のすばらしいところであったと思います。

前回、コメントさせていただいた、だれがフォローをすべきか、スケジュール感もできるだけ反映していただいて、この最終取りまとめもすばらしい内容になったと思います。

最後に、もちろん、今回は日本の災害対応ですが、世界各国では災害が随時起こっているわけで、そういった観点で、最終取りまとめのような知見や取組そのものを世界に情報発信する、もしくは、強い災害の国づくりを日本の国際貢献として、ODAのタイミング等を出していくことも重要ではないかと思えます。この4月の発足以来、本当にありがとうございました。

桜井座長) どうもありがとうございました。それでは、清貞さん、一言お願いできますか。

清貞構成員代理) 有馬の代理で伺いました清貞です。

弊社では、パーソンファインダーを今回の地震のときに提供させていただきまして、多くの方に使っていただきまして、今後もこうした活動は随時やっていきたいと考えております。

ただ、インターネットのサービスを皆様が利用できるのも通信確保があつてのことであり、事業者の方々が御尽力されていることを伺いまして、私たちは非常に感謝してお

ります。今後ともよろしく願いいたします。

桜井座長) どうもありがとうございました。それでは、先生方からコメントをいただきたいと思います。服部先生お願いします。

服部構成員) 上智大学の服部でございます。

今回、大規模災害等緊急事態における通信確保の在り方について、2つのWGがございました。私はネットワークインフラWGの主査、インターネット利用WGの副主査の大役を仰せつかりました。大変な役目でしたが、皆様の御協力により、大変立派な最終取りまとめができたと思っております。

また、最終取りまとめに当たりまして、事務局の皆様が大変な労を払われたと思いますので、労をねぎらいたいと思います。

今回、このタイトルが最終報告という報告ではなくて、「最終取りまとめ」となっております。そういう意味で、これがスタートラインということで、今後、いかに多くの学んだことを具現化していくかということが重要ではないかと思っております。

皆さんがここでお集まりになったということで、いろいろな面での共通コンセンサスが得られたこと、さらに、お互いの知見が多くまとめられたことが非常に重要だと思っております。

かつて、ビスマルクの言葉に「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」という言葉がございますが、私は優れた賢者は歴史にも経験にも学ぶということではないかと思っております。御案内のとおり、情報通信、あるいは情報関係のサービスについては、現在の社会のインフラとして、社会的な公益性が求められるとともに、事業としての収益性の両方を両立していくことが必要になっていると思っております。これらの両方を成立させていくことが、エクセレント・カンパニーとしての1つの役割だと思っております。しかし、一方では、これだけ大きな課題になりますと、事業者だけでは取り扱えない、それを越えた部分があるということが今回の最終取りまとめでも私自身も認識できたと思っております。産業育成も含めて国の役割がますます重要になるのではないかと思います。

最終取りまとめをスタートとしまして、我が国の情報通信関係が一層成熟して、国際競争力をもって世界に発信できることを、是非期待したいと思います。

以上で私の言葉とします。

桜井座長) ありがとうございました。それでは、相田先生、お願いいたします。

相田構成員) 東京大学の相田でございます。

私からも、WGの主査、主査代理を務めた者といたしまして、構成員の皆様、事務局

の大変な御尽力に感謝申し上げたいと思います。おかげさまで、非常にいいものができたと思っております。

ただ、パブリックコメントでも幾つか御指摘いただきましたように、この手のものは奥が深いというのでしょうか、どうしても政府や事業者さんだけでやれることには限界があるかなというところかと思えます。

私の個人的経験ですが、1989年、アメリカに住んでいたころに、近くでサンフランシスコ地震がありました。住んでいたころに、日本とどういうところが違ったかということをお話したことがありますが、南の地域で田舎ではあったのですが、道が渋滞したという経験がありません。地震の後、停電で信号機等すべて消えてしまったのですが、アメリカの場合には交通量の少ない交差点は4-WAY STOPといって、四つ角全部に止まれの標識が立っていて、来た車は全部いったん、そこで停止して、来た順にまた出るというルールがあるものですから、信号が消えていても、皆でルールに従うとか、近所の方が出てきて、交通整理を行うということがありました。普段どのようなことをやっているかとか、ボランティア精神、一種の国民性というのでしょうか、そういうものがいざというときにどうなるかというのに少なからぬ影響があるということをお話した記憶がございます。

私がおりましたのは20年以上前、まだ商用インターネットもない、携帯はあったのだと思いますが、全然普及していなかった時代ということではありますが、結局、その後出てきた携帯、インターネット、あるいはワンセグ等のツールをこの後、いかに使いこなしていくか。そして、それを一般の国民の方々に普及・啓蒙というのでしょうか、いかに使いこなしていただくかということで、先ほど、訓練という言葉もありましたが、訓練とあいまって、事業者さんが実施することが本当に効果を発揮することになると思いますので、どなたが実施することになるのかはよくわかりませんが、これから、こういったものを積み上げていき、来るべき次の災害に備えていけたらなと思います。

繰り返しになりますが、本当に皆様、御協力ありがとうございました。

桜井座長) どうもありがとうございました。

私からも、最後にコメントさせていただきます。

今もいろいろお話がございましたように、震災直後から、復旧の初期段階からお集まりいただき、積極的な御議論をいただきまして、ありがとうございます。この会合だけで7回、WGはそれぞれ9回会合を開いて、御熱心に御討議いただいたわけでございます。また、その議論の過程でも随分いろいろな改善策に取り組まれているということで

ありますし、また、個々のビジネスの利害を超えてといえますか、共同作業が生まれているということで感謝申し上げたいと思います。

フォローアップが大事だという御意見もありまして、最終取りまとめも御意見を踏まえて修正させていただいておりますが、総務省としても、最終取りまとめに記載がございますことについて、きちんとフォローアップをしていきたいと思っております。

また、この検討会のスコープですが、どうしても通信事業者、あるいはインターネットプロバイダという情報システムの提供側からの視点を中心にならざるを得なかったということがあると思います。そういう意味で、情報を具体的に作る側、あるいはそれを流す側、受け取る側という視点は、総体的にいうと少し小さかったということがあると思います。いろいろなところでいろいろな研究や検討が行われていますので、そういうものと合わせて立体的に理解することかなと思っております。

それから、この検討過程におきましても、外国の政府関係機関からも大変強い関心をいただいておりますので、おそらく速やかに英文を作るだろうと思っておりますので、是非、皆様方もいろいろな機会に日本の情報インフラの対応、あるいはこれからの対策について御紹介いただいて、多少でも国際貢献ができればと思いますので、よろしくお願い申し上げます。以上でございます。

今日は年末のお忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございました。これもちまして検討会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

以上